

ミャンマー写真展

「少数民族の村に水道を作った人 佐々木晃一」を開催しました！

ミャンマー東部の少数民族の村で水道を引いてきた神戸市北区の建築家・佐々木晃一さんのボランティア活動を紹介する写真展を、9月28日から10月7日まで、ひょうご国際プラザ交流ギャラリーで開催。当写真展の主催者であるミャンマー関西代表の猶原信男さんが、3年前に同ギャラリーで開催したミャンマー写真展で佐々木さんと出会い、そのご縁が今回の開催につながりました。

佐々木さんは「何かみんなの役に立つことをしなければ」と、65歳で一念発起。日本での仕事が落ち着く1、2月ごろにほぼ毎年20日間ほど一人で現地に入り、村人と一緒に水源を確保して、私費で雇った現地の業者と共に水道や井戸を作りました。18年間で携わった村の数は10に上ります。「人には優しくせんといかん」と語る佐々木さん。活動当初は心配で反対していたご家族も、写真展の開催を喜んでいと涙ながらに話されていました。一人の熱い思いが世界を変える。そんなことを感じさせてくれる写真展でした。



ミャンマーでの作業の様子



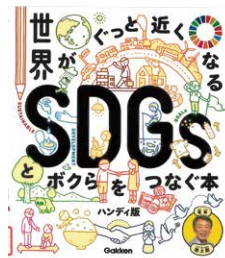
「写真展の開催はうれしい」と佐々木さん

身近なことからSDGs

ひょうご国際プラザ所蔵の書籍からSDGsに関連する本を紹介します。



みんなの地球を守るには？
(エリーズ・ルソー文・ロベール絵・服部雄一郎訳 / アノニマ・スタジオ, 1600円(税別))
フランスの子どもに向けて書かれた本の日本語訳。短い言葉と絵で分かりやすい。環境問題を考えるきっかけに



世界がぐっと近くなるSDGsとボくらをつなぐ本
(池上彰監修 / 学研プラス)
2030年までに達成すべき17の目標ごとにマンガと絵によって解説されている。具体的にどういうことなのか分かりやすい



女の子がいる場所は
(やまじえびね著 / KADOKAWA/ビームコミックス)
今なお「女の子だから」に縛られる5カ国の10歳の少女たちの物語。少女たちの状況が少しでも変わってほしいと願う



北欧でみつけたサステナブルな暮らし方
食品ロスを減らすためにわたしたちにできること
(井出留美著 / 青土社)
とても身近な食品ロスの問題。自分にできることを始めたいと思わせてくれる



ひょうご国際プラザ

ひょうご国際プラザでは、毎月テーマを決めて特別展示を行っています。お楽しみに！



開館時間等の詳細はこちら▲

SDGs×国際交流

私たちに今できること



HIAはSDGsの目標達成に貢献します！

HIAは「多文化共生社会の実現」「交流人口の拡大」「人づくりへの貢献」を活動軸としてさまざまな国際交流活動を展開しています。これらの活動は、実はSDGsとつながりが深く、17の目標の多くと合致します。皆さんの国際交流活動がSDGsのどの目標に寄与しているのか、SDGs達成に向けて今日からできることは何なのか、一緒に考えてみませんか。



SDGsとは何？

SDGsは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月に国連サミットで採択された2030年までの国際開発目標です。17の目標と169のターゲット達成により、世界各国において、誰ひとり取り残さない持続可能で多様性(ダイバーシティ)と包摂性(インクルージョン)のある社会の実現に向け取り組むものです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



国際交流におけるSDGsとは？

兵庫県では、SDGsの理念に沿った「ひょうご多文化共生社会推進指針(2021年3月改定)」により、「地域の発展に向けて、グローバルな多様性(ダイバーシティ)を生かして、県民が共につながりあって活躍する包摂性(インクルージョン)に富んだ兵庫の多文化共生社会の実現」を目指して国際交流活動に取り組んでいます。



私たちにできることは？

- ▶ 新しい世界の言語を学ぶ
- ▶ 国際交流イベントに参加することで異文化理解を深める
- ▶ 学校や職場のルールは簡単な言葉にして外国人に伝える
- ▶ 困っている外国人を見かけたら声をかける
- ▶ 「やさしい日本語講座」を受講する
- ▶ 世界のニュースに目を向け、それに対する自分の意見を考える
- ▶ 外国人の友達をつくる
- ▶ 日本語や日本文化を学んでもらう機会に参加する



私たちにできることは
身近にたくさんありますね！

SDGsは私たちが
進むべき道標を
示してくれているんだね！



HIAの活動とSDGs

多文化共生社会の実現

●日本語講座の開催



●災害時の外国人支援



●ウクライナ避難民支援



●外国人県民インフォメーションセンター (ひょうご多文化共生総合相談センター) の運営



●国際交流団体等ネットワークの構築 (ひょうご国際交流団体連絡協議会)



●ひょうご国際交流キャラバンプロジェクト



ひょうご国際交流団体連絡協議会の構成団体から要望があれば、兵庫県の国際交流員(CIR)と一緒にイベントを開催し、異文化交流を行っています。

人づくりへの貢献

●国際交流セミナーの実施



●訪日教育旅行の誘致促進・学校交流支援



●国際交流企画展示会の開催



ひょうご国際プラザ交流ギャラリーにて、国際交流に関する企画展示を不定期で開催しています。気軽にお立ち寄りください！

例 2022年10月25日 「SDGsと国際交流」セミナー

講師の兵庫県立大学・高橋綾子教授からSDGsの概要を教わった後、具体的な活動事例として、兵庫県立大学環境人間学部3年生で学生国際協力団体CHISE代表の岸田夕奈さんが、ラオスの子どもたちへの教育支援活動について発表。HIAは兵庫県ウクライナ避難民支援活動を紹介しました。



日本庭園(枯山水)の研究

市町の活動紹介

2022年11月12日

始めてみようボランティア! SDGs×多文化共生ワークショップ

姫路市文化国際交流財団が、講師に自治体国際化協会の地域国際化推進アドバイザー、阿部一郎さんを招きワークショップを開催。初めに財団職員の後藤さんから姫路市の在住外国人を取り巻く現状が紹介され、その後、阿部さんからSDGsが誕生した背景にある世界情勢について教わりました。参加者18人は、グループごとに「世界の分断の原因は何か」といったテーマについて話し合いながら、多文化共生とはどのような社会状態なのかを考え、最後に自分たちができる取り組みを発表しました。SDGsをより自分事として捉える良い機会となりました。



HIAのイベントやギャラリーの
開催情報はメールマガジンやFacebookで
配信中！(裏表紙をご覧ください)
Let's get involved!!

多文化共生の窓

HIAの前野職員が昨秋参加した「豪州多文化主義政策交流プログラム」で学んだこと、ウクライナ避難民に対する支援事業を紹介します。

多文化主義国家オーストラリアでの学び

2022年11月中旬、自治体国際化協会主催の「豪州多文化主義政策交流プログラム」に参加。メルボルン市内の行政機関、学校、NPO団体を訪問し、多文化共生社会を支えるさまざまな取り組みについて調査しました。今回は特に印象に残った視察先をご紹介します。



①Caulfield Primary School

日本語と英語のバイリンガル教育を行っている公立小学校。徹底したバイリンガル教育を行っており、例えば、算数の授業では日本語が用いられ、授業中に児童が日本語以外で発言しても、先生は日本語でしか返答しません。児童の語学レベルによってはハードルが高いですが、英語と日本語を利用する機会を十分に確保できることから、質の高い教育の実現につながっていると感じました。



自然と日本語が目に入る環境(写真は教室の壁)

②AMES (Adult Multicultural Education Services)

移民や難民のための基本的な支援を行う団体で、英語教育や就労・住居探しの支援等の事業を展開。移民や難民を支援する際には、同じ文化的背景を持ったスタッフができる限り担当し、きめ細やかに対応することで、移民や難民がオーストラリアでの生活に早く慣れ、最終的には長く住み続けられる社会づくりを目指しています。



AMES General managerのピーターさん(1列目右から4人目)、前野職員(2列目右端)

ウクライナ避難民支援

日本語学習の機会提供と受け入れ側向けの研修を実施



兵庫県ではウクライナから戦禍を逃れて来た方々にさまざまな支援を行っており、その一つとしてHIAは避難民対象日本語講座を開講。神戸市内の避難民は神戸市が主体で、それ以外の市町ではHIAが日本語学習支援を担っています。神戸市以外では避難民は複数の市に点在しているため、この講座が同じ兵庫県に住む避難民の方同士をつなぐ心地良い居場所になるように、各地域を結んだオンライン講座を実施しています。生活に必要な言葉や表現を講座で優先的に学び、買い物や、電車やバスを利用するの外出など、自分でできることが少し

長く兵庫県にお住まいのウクライナの方や、留学生として日本に来た方も、授業サポートや資料の翻訳など、さまざまな支援に加わってくださいました



クラスの皆さんは、日本語を勉強して、生活の中でも自分のできることが少しずつ増えてきたようです

ウクライナ語サポーターのオリガさん

ウクライナ避難民への支援を考える研修会 ～難民的背景を持つ人々への支援から学ぶ～

第1回	「日本の難民受け入れ」 公益財団法人 アジア福祉教育財団 難民事業本部関西支部 中尾秀一氏
第2回	「第三国定住難民の地域定住支援の現場から」 特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター 大石貴之氏
第3回	「フェーズに合わせた支援を目指して」 社会福祉法人 日本国際社会事業団 石川美絵子氏

Pick Up! 訪日教育旅行

“with コロナ”に向けた新しい国際交流

コロナ禍とともに始まった、オンラインツールを使った国際交流。その実施件数は年々増えています。昨年度は台湾、韓国、オーストラリア、ニュージーランドといった国や地域との交流を51件実施。本年度はアメリカやマレーシアといった新たな国との交流も始まり、2023年1月末時点で既に昨年度を超える82件もの交流が実施されています。

そのような中、2月、3年ぶりに台湾の高校生が来日しました。それも、オンラインで友好関係を深めた県内の学校と対面で交流するという、うれしいニュースです。

今後は実際に訪問する前にオンライン交流を行い、対面での交流への期待感や意欲を高めるといった使い方も増えると考えています。

……… 最近の取り組みを3つご紹介します ………



各府県のコーディネーターがリレー方式で関西の魅力を発信



マレーシアとのオンライン交流の様子



初の小学生同士のオンライン交流の様子。自己紹介や好きな色・食べ物などQ&A方式で交流しました

取り組み①

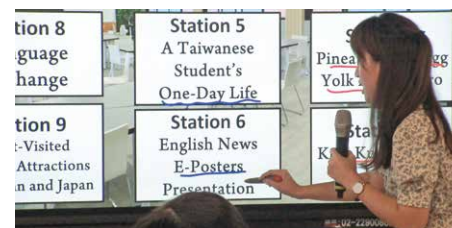
これまで交流が少なかったアメリカ・カナダの学校関係者や訪日旅行を取り扱う旅行業者向けに、オンラインセミナー「Re:Discover KANSAI」を実施。国生み神話から始まる日本の歴史や伝統を伝える内容で、兵庫県をはじめ関西の魅力をアピールしました。参加者の反応は良好で、今後は新たにアメリカの大学やカナダの高校との交流も始まる見込みです。

取り組み②

オンライン音楽祭を開催。平和を願い、音楽で世界とのつながりを感じてもらおうと実施しました。関西5府県(兵庫・京都・大阪・和歌山・奈良)の高校生と中国・台湾・韓国・マレーシア・オーストラリアの生徒たちが参加し、各々の伝統音楽や踊りを披露。最後に「We Are The World」を全員で合唱しました。兵庫県からは、県立西宮高等学校邦楽部の皆さんが和太鼓による演奏と獅子舞を海外に発信。音楽を通じてお互いの理解を深める貴重な体験になりました。



「台日教育交流20周年記念事業」式典会場



取り組み③

日本の文部科学省に当たる台湾教育部が主催する「台日教育交流20周年記念事業」で台湾を訪問しました。台湾の高校が初めて九州に修学旅行で来て20年の節目に、未来に向けて共に教育旅行を進めていこうという趣旨の事業です。式典では、兵庫県の県立伊丹高等学校と県立龍野高等学校がこれまでの交流に対して表彰されました。台湾の高校を視察したところ、ICT(情報通信技術)の環境整備が進み、授業でデジタル機器が大いに活用されていることに驚かされました。現在、台湾とのオンライン交流の件数が群を抜いて多いことが理解できました。今後も良好な関係が続くことを期待します。



記念品のディベア

台湾の高校での電子黒板を使用した授業



日本の伝統音楽である和太鼓と獅子舞のパフォーマンスを披露

……… 最後に ………

コロナ禍の対応に徐々に明るい兆しが見られる中、“with コロナ”に向けた新しい国際交流の可能性に大いに期待するとともに、私たちも引き続きサポートを行っていきます。

令和4年度兵庫EUセミナー 「駐京都フランス総領事講演会」を開催

12月6日、関西領事団団長のジュール・イルマン駐京都フランス総領事を兵庫県へ招き、灘五郷・清酒「福寿」の酒蔵・神戸酒心館でセミナーを開催。69人が参加しました。

前半は、イルマン総領事が「びっくりフランス！～皆さまのご存じないフランス」というテーマで文化、歴史、思想、教育、経済情報などについて講演。参加者からの質問（兵庫県とフランスとの交流、パリ 2024 夏季オリンピック等について）にも回答いただきました。後半は神戸酒心館に併設する蔵の料亭の会席料理と日本酒を味わいながら、総領事を囲んで交流会を実施。食事中、1889年来神したド・リュシイ・フォサリウ神戸大阪フランス領事の家族写真も紹介しました。



参加者全員で記念撮影



オリンピック・パラリンピックのマスコット



イルマン総領事の講演

今回は3年ぶりの会場でのリアル開催で、参加者から「実際に交流できてうれしい」という声も。また、「フランスの雰囲気肌を感じられて面白かった」「フランスをさまざまな角度からご紹介いただき、さらに興味が湧いた」等の感想が寄せられました。

フランスをさまざまな角度から学んだ兵庫EUセミナー、中国の海南省をテーマにした国際交流サロンの模様をお届け。合わせて、アメリカからの新しい国際交流員を紹介します。

中国・海南省にもっと近づく 「兵庫・海南国際交流サロン」

11月23日、兵庫県の友好提携先である中国・海南省を紹介する「兵庫・海南国際交流サロン」を海南省との共催で開催しました。

オンラインで現地とつ 司会・発表を務める王さん

ないだ今回のサロンは、まず初めに海南省外事弁公室の曾曉明副主任から海南省の概要や兵庫県との交流などについて聞いた後、海南各地の気候風土や観光スポットなどを紹介するビデオを視聴しました。その後は、海南島在住で日本人会会長の林由恵さんにご案内いただき、海口市にある人気の観光スポットで、ノスタルジックな南洋スタイルの建物が残る「騎楼老街」と市民の生活の場である「東門市場」の様子を生中継で見学しました。

チー・ロウラオジェ
ここは騎楼老街です！



現地の様子を紹介する林さん

司会進行を務めた兵庫県国際交流員で海南省出身の王秋声さんは、海南省についての基本情報のほか、フルーツや料理などの食や昼寝の習慣といった興味深く特徴的な文化を紹介。大盛況のうちに終了しました。



Welcome our new CIR! 新しい国際交流員が着任しました

Salutations!!

(こんにちは)



チン・シェンさん

年間を通じて温暖なアメリカのアリゾナ州から参りましたチン・シェンと申します。2022年の7月から国際交流員(CIR)として勤務しています。

大学では心理学と経営学を勉強しました。その後、法科大学院に進学し、卒業後はアリゾナ州で弁護士として刑法と親権に関する案件を取り扱っていました。趣味はピアノと語学で、英語、日本語、中国語、広東語、スペイン語を話せます。韓国語とフランス語は勉強中です。

CIRだからこそその責務、やりがい、そしてチャレンジを通じて、今までできなかった新たな視点から世界を見られる点に魅力を感じています。自分なりに worlds を words でつなげたいです。



アリゾナ州の州都のフェニックスは夏には50度まで上昇します。地面に生卵を割ると、目玉焼きができるくらいです！

ぼうさいこくたい2022に出展しました！



10月22日、23日に、HAT神戸で開催された内閣府主催の国内最大級の防災イベント「防災推進国民大会(通称:ぼうさいこくたい)」でブースを初出展。2日間で233人の訪問がありました。ブースでは、HIAの取り組み紹介をはじめ、やさしい日本語や翻訳アプリを使った外国人との災害時のコミュニケーション体験や、国際交流員の出身国で起こる災害にまつわるクイズをしました。参加者からは「やさしい日本語にいきなり言い換えようとする」と想像以上に難しかった」といった感想があり、外国人支援という視点で防災を考える機会を提供することができました。

子どもと親の防災ガイドブック(5言語)の改訂に加えウクライナ語版を作成しました！

在住外国人の親と子が日本語と母語で一緒に防災について学ぶため、2012年度に作成した「子どもと親の防災ガイドブック」を改訂しました。

2021年度は5言語(英語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語)を改訂。2022年度は4言語(韓国語、フィリピン語、インドネシア語、タイ語)の改訂に加え、ウクライナ語版を作成しました。協会ホームページからダウンロードできますので、ぜひご活用ください。



対応言語

英語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語、韓国語、フィリピン語、インドネシア語、タイ語、ウクライナ語

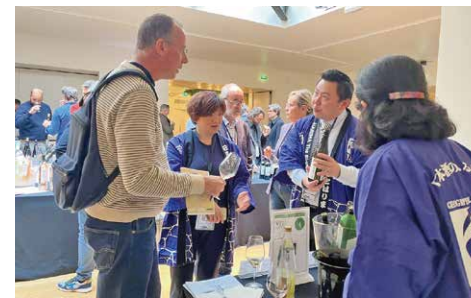


海外事務所だより

兵庫県パリ事務所



イギリス・ロンドンでの観光PR



パリでの日本酒プロモーション活動

Échanges entre le Hyogo et l'Europe !!

欧州現地事務所としてフランスと兵庫の交流をお手伝い

兵庫県パリ事務所は、フランスをはじめとする欧州、中東およびアフリカとの経済・文化交流の促進等を目的に、1993年に開設されました。現時点ではフランスで唯一の日本自治体の駐在員事務所です。

コロナ禍により、残念ながら多くの交流が停滞を余儀なくされました。しかし、本年度に入ってようやく回復の息吹を感じられるようになってきました。

経済交流では、兵庫県内企業の欧州進出を支援しています。近年では、多くの県内企業が特産品である日本酒や線香、皮革製品をはじめ、多種多様な地場製品の販路拡大に取り組んでいます。こうした県内企業のプロモーション活動の円滑な実施をお手伝いしています。また最近では、フランス企業を本県へ誘致するセミナーの開催や県内スタートアップの海外展開の支援にも取り組んでいます。

観光面では、訪日旅行者の多いイギリスやフランスを中心に、各地で開催されるイベント会場で観光PRブースを出展し、“HYOGO”の観光地を紹介しています。その他、日仏学校間の教育交流や県内芸術家の活動支援、トルコとの防災協力のお手伝い等も私たちの主要なミッションです。これからも欧州現地事務所として、国際交流をお手伝いさせていただきます。(兵庫県パリ事務所 所長 大江 伸一郎)